

秋田県私立幼稚園・認定こども園連合会
(一財) 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

教員免許状更新講習
「幼児教育の最新事情と保育実践」

令和3年10月15日(金) 9時30分～4時30分(含:試験)

加藤篤彦
(一財) 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 専務理事

2018年4月からの幼稚園教育要領改訂の実施

2019年10月からの無償化の実施

無償化の2つの柱

- 1) 幼児教育への公的資金の投入（満3歳から対象）
 - 幼稚園教育要領の理解
 - 幼稚園教育要領を理解した上での実施
- 2) 就労支援（学齢3歳から対象）
 - 各基礎自治体での行政対応

2019年10月から 消費税財源による無償化の実施

巨額の公費投入 → 幼児教育の価値が認められたこと！
→ 一方で私達は今までとは違った
ステージに立つことになった

1. 公的支援に見合った質の高い幼児教育の提供
2. 幼児教育の質の向上を図る社会的責任

この2点がこれまで以上に、求められる

幼児教育の無償化の論点

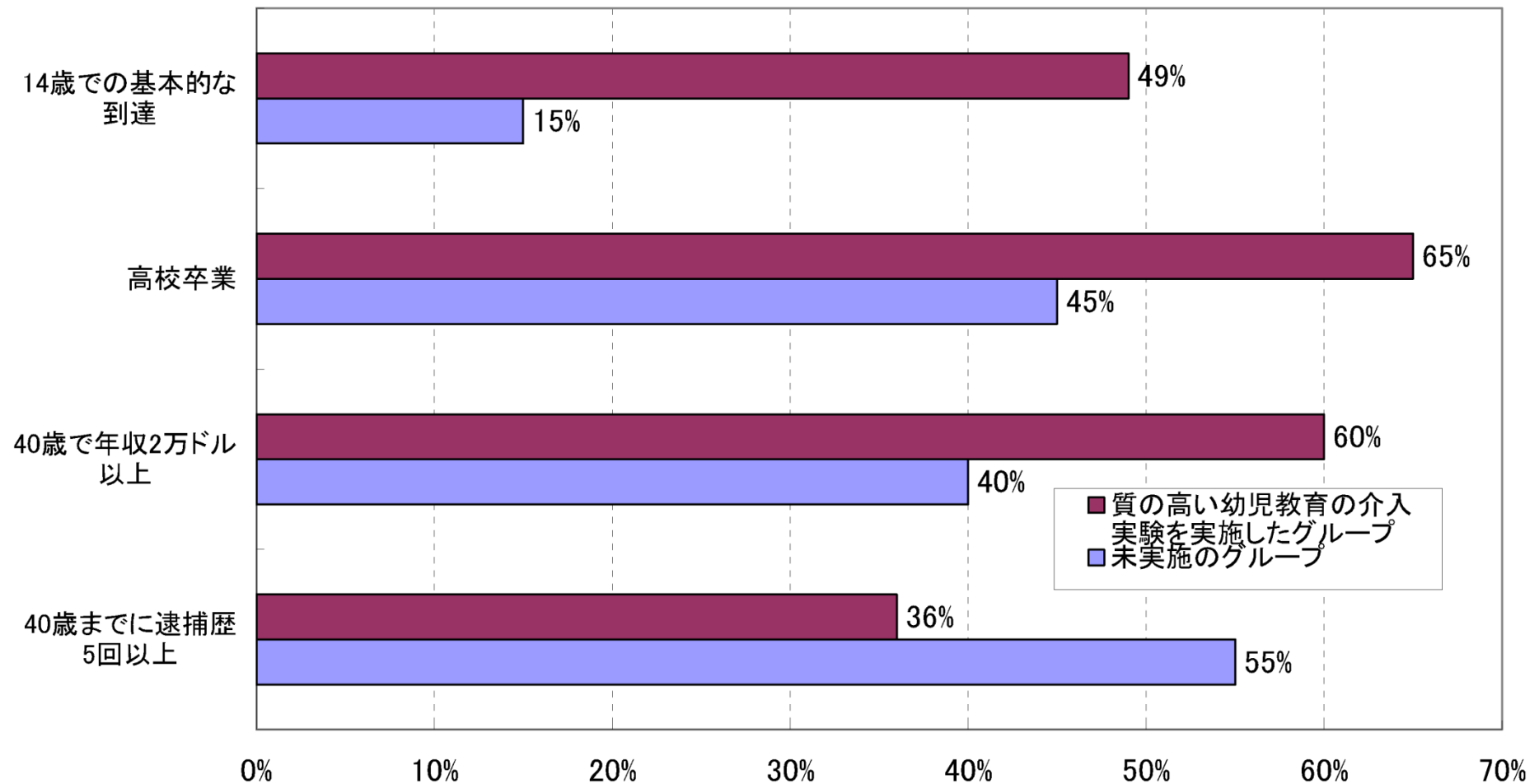
2009年

平成21年3月30日
文部科学省幼児教育課



文部科学省
MEXT

2000年にノーベル経済学賞を受賞した
米シカゴ大のヘックマン教授の
ペリーの就学前計画

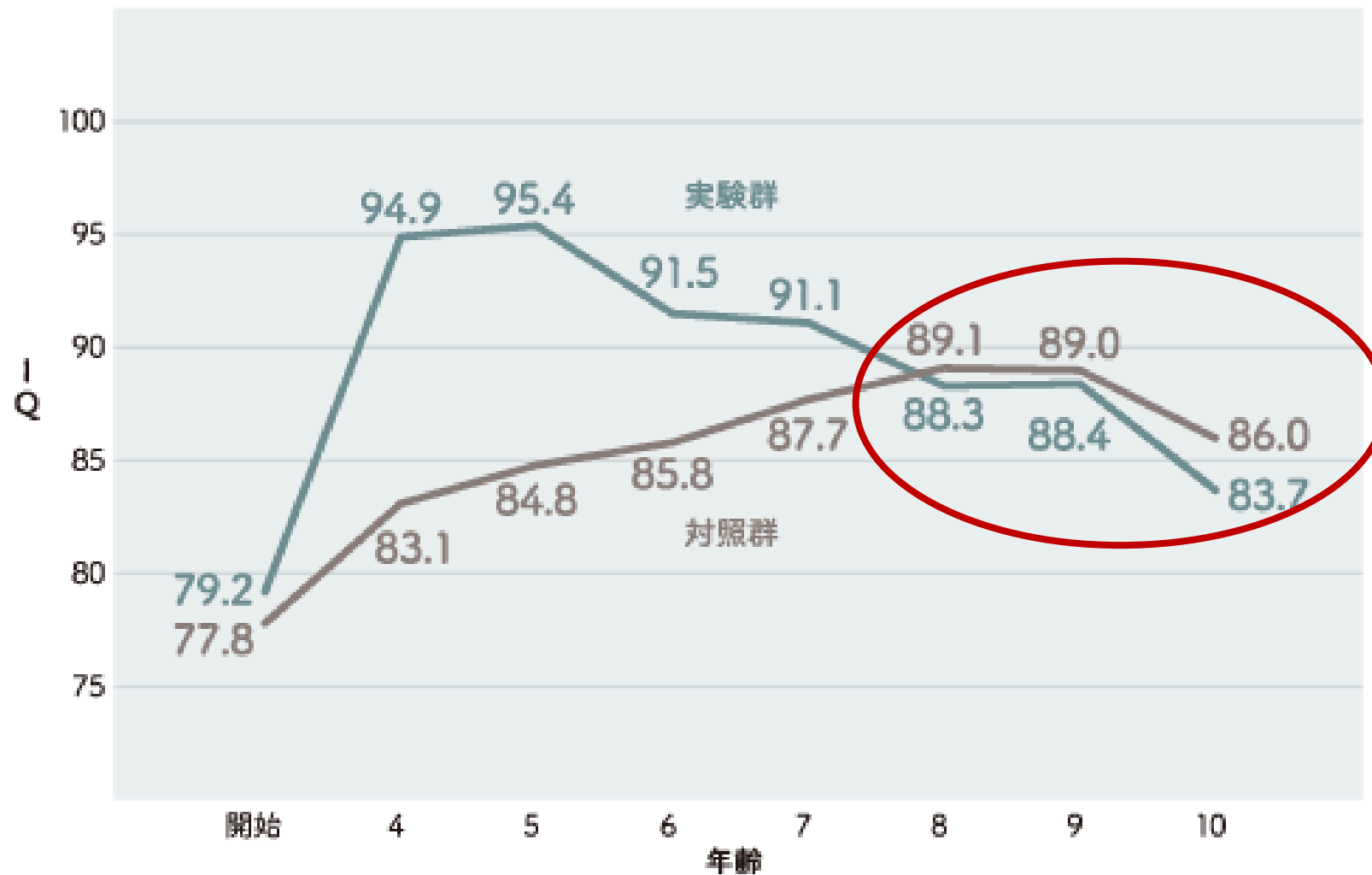


[出典] Starting Strong II; EARLY CHILDHOOD EDUCATION AND CARE (OECD, 2006)

紫色は、幼児教育実施グループ
青色は、未実施グループ

図表 1

ペリー幼稚園プログラムにおける認知能力(IQ)の変化



出所: Heckman, J. J. & Mosso, S. (2014) The economics of human development and social mobility (No. w19925). National Bureau of Economic Research

なぜ幼児教育には、よい効果があるのか

ヘックマン教授の理論「社会的に成功する3つの要素」

1. 認知（IQ）

認知的能力

2. やる気 3. 根性や忍耐

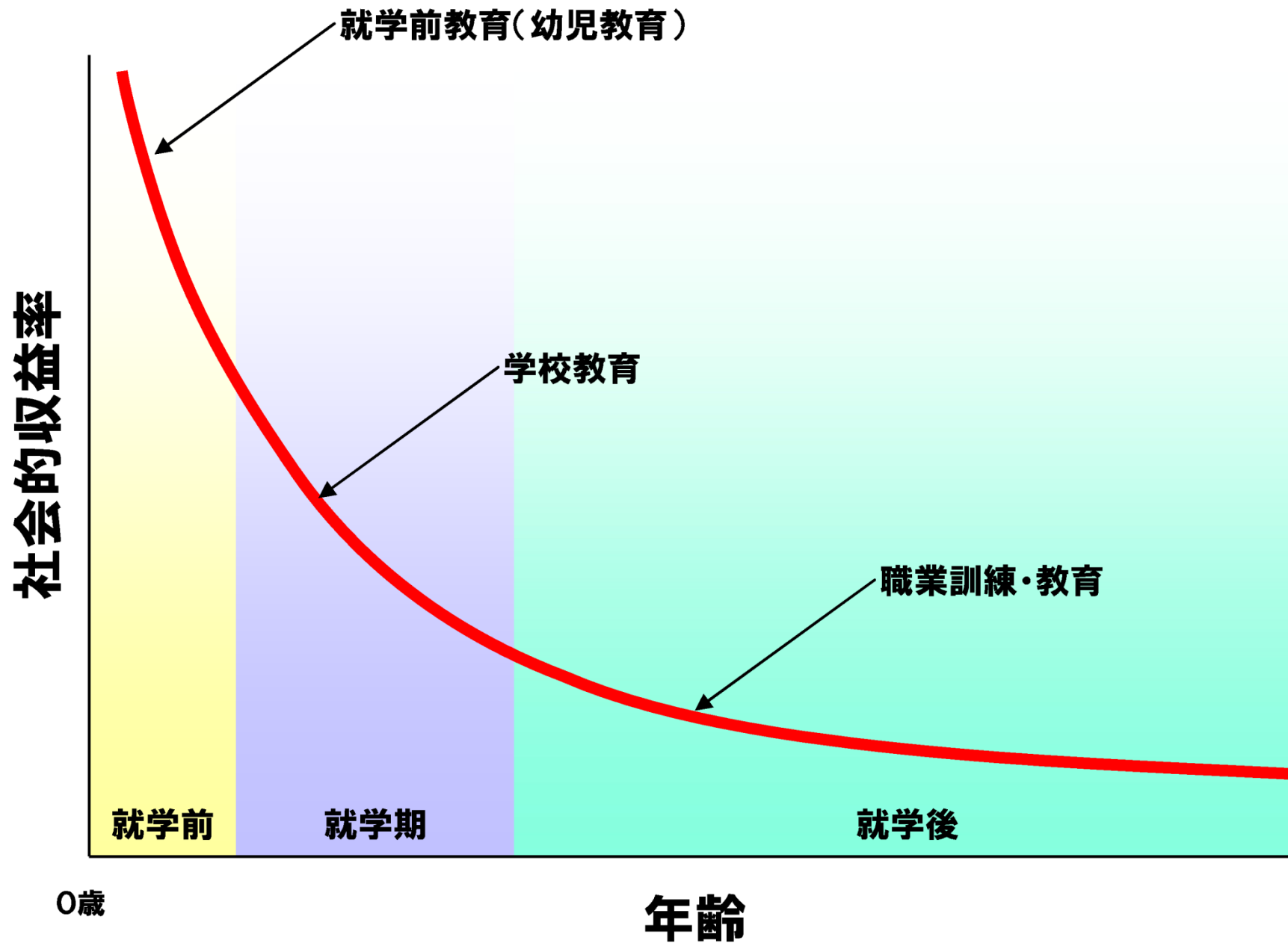
非認知的能力
（幼児期に発芽する）



幼児教育の効果は、

2. やる気・意欲

3. 根性・忍耐 → 根気（興味や集中が持続した姿）



(出典) Carneiro, P. & Heckman, J.J. "Human Capital Policy", MIT Press (2003)

幼稚園教育要領等の改訂

不易



流行

【変化する社会を生き抜く子供への教育】



▶ 変化し続ける時代

未来社会の予測

Society 5.0

SDGs

人生100年時代

働き方改革

ICT

インクルーシブ

多様性の尊重

自然災害の甚大化（防災） 防犯

コロナ禍 新しい生活様式（り患防止）

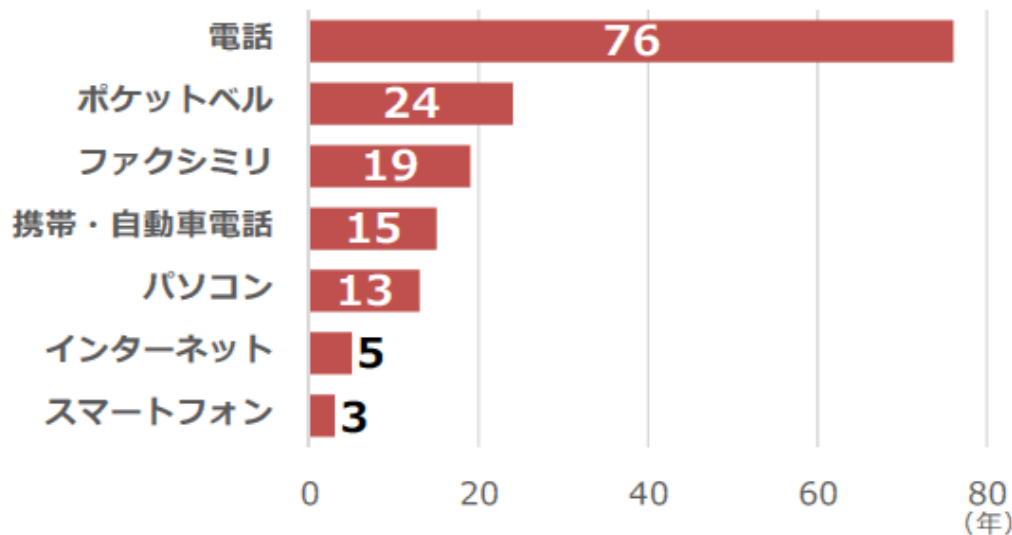
▶ 世界の幼児教育の変化 OECD Starting Strong V 幼児教育の効果 世界的な共通認識

- 制度の変化 新制度 幼児教育無償化 説明責任 学校評価
- 「社会に開かれた教育課程」 連携と協力の時代をめざして

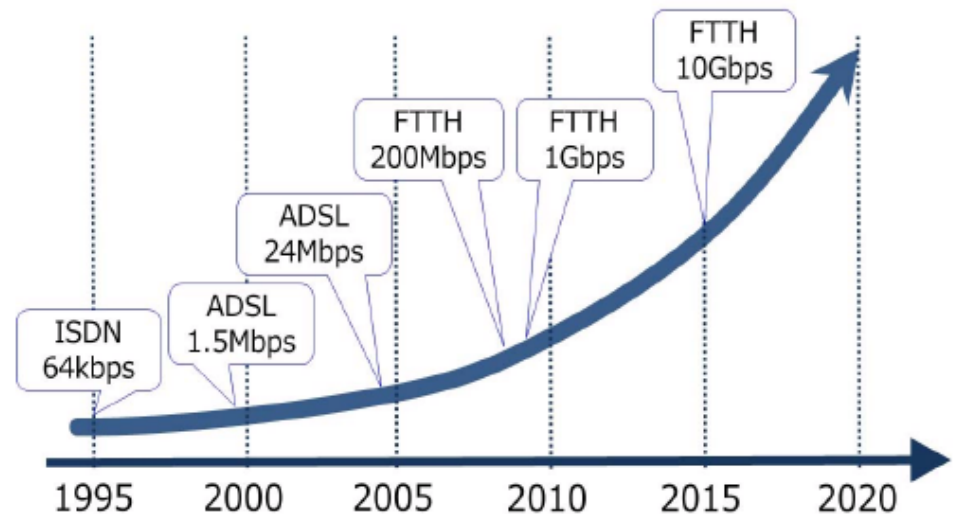
社会変化

猛烈な革新のスピード

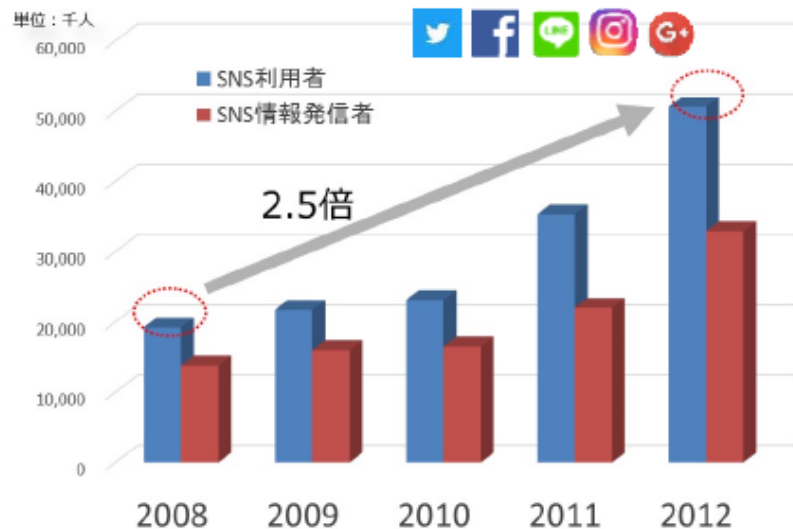
世帯普及率10%達成までの所要年数



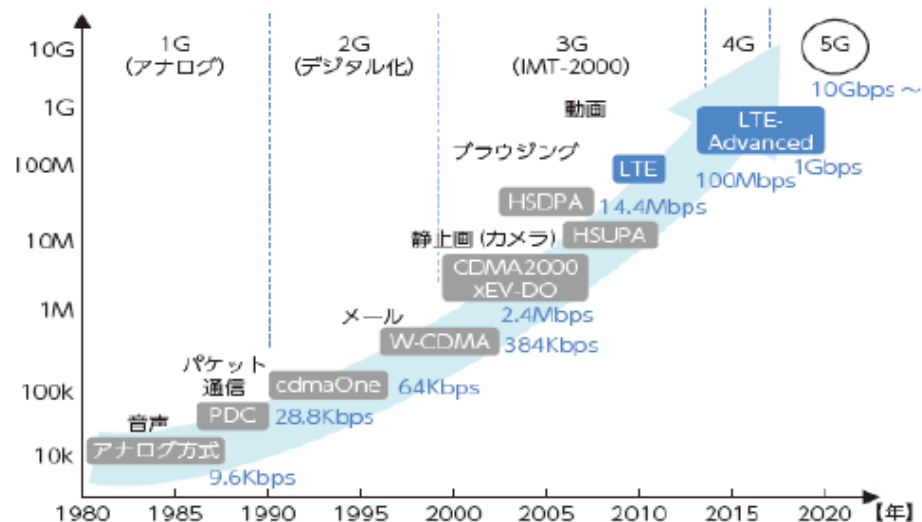
有線のスピードは20年で 約156万倍

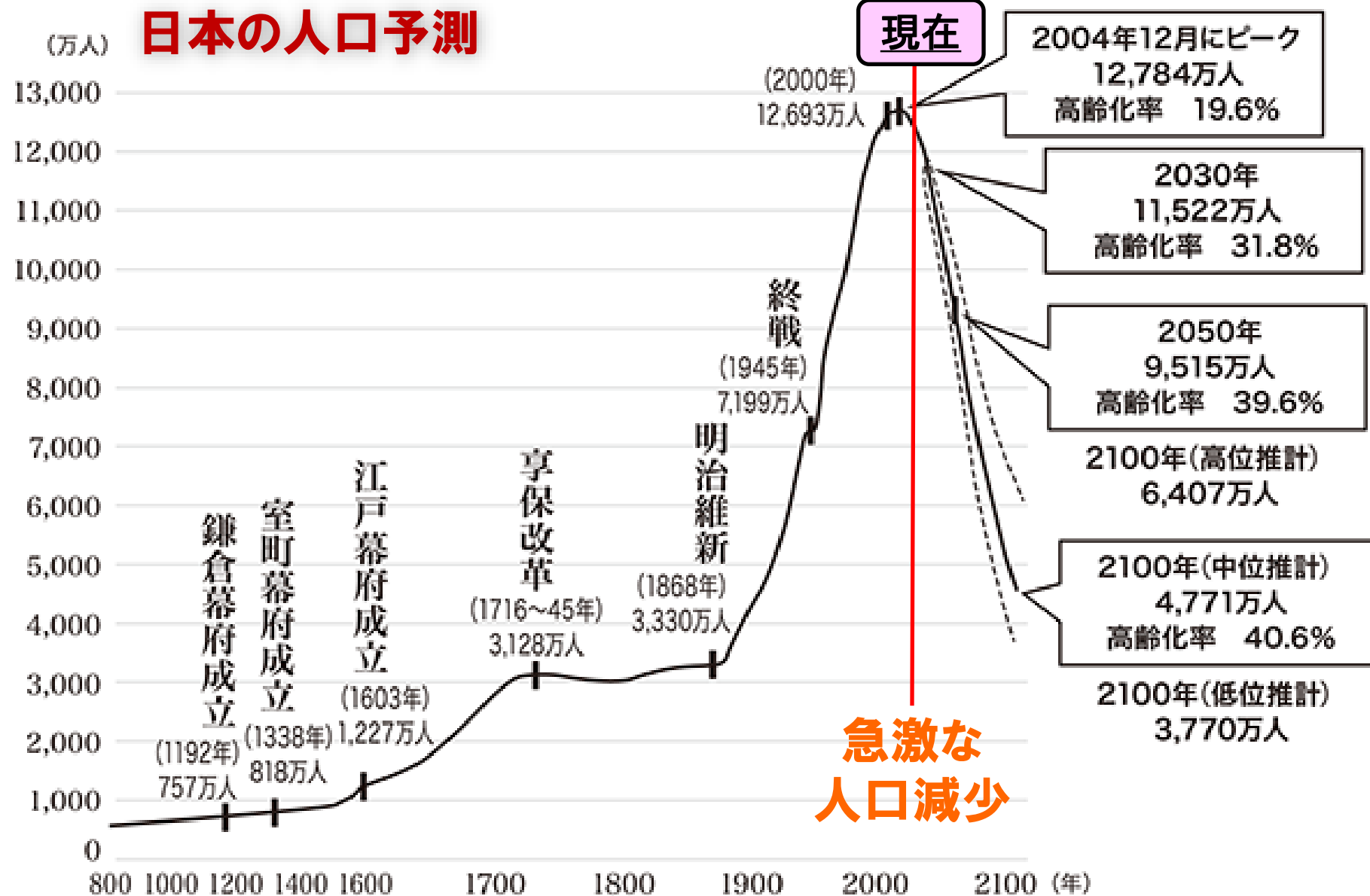


SNS利用者はたった5年で 人口の半数に



無線のスピードは40年で 約100万倍





日本の総人口の長期的トレンド

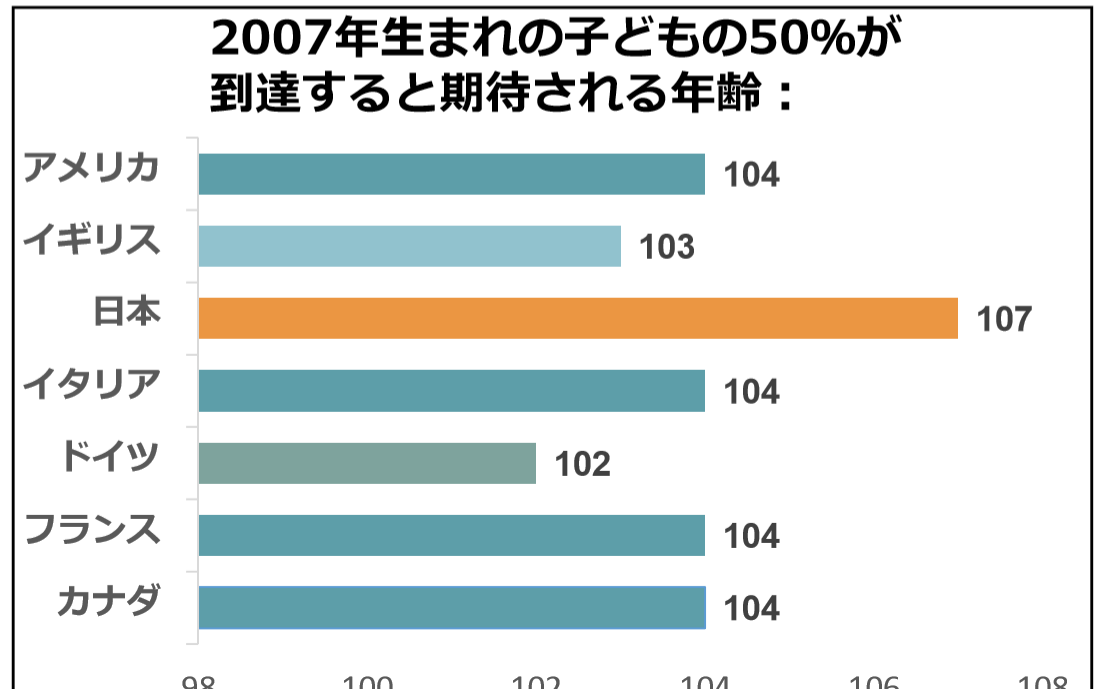
(出所)総務省「国勢調査報告」、同「人口推計年報」、同「平成12年及び17年国勢調査結果による補間補正人口」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成18年12月推計)」、国土庁「日本列島における人口分布の長期時系列分析」(1974年)をもとに、国土交通省国土計画局作成

人づくり革命と人生100年時代構想会議

- 日本は、健康寿命が世界一の長寿社会を迎えている。海外の研究（リンダ・グラットンの著書「ライフシフト」で引用されている研究）を元にすれば、2007年に日本で生まれた子供については、107歳まで生きる確率が50%もある。
- こうした超長寿社会において、人々がどのように活力をもって時代を生き抜いていくか、そのための経済・社会システムはどうあるべきなのか。それこそが、「人づくり革命」の根底にある大きなテーマ。
- こうした社会システムを実現するため、政府が今後4年間に実行していく政策のグランドデザインを検討する新たな構想会議として、「人生100年時代構想会議」を設置。
- 年内に中間報告をとりまとめ、政策パッケージも盛り込んだ基本構想を、来年前半には打ち出す。

主要国の健康寿命・平均寿命

国名	健康寿命	(参考) 健康寿命 の順位	平均寿命	(参考) 平均寿命 の順位
日本	74.9	1位	83.7	1位
韓国	73.2	3位	82.3	11位
イタリア	72.8	5位	82.7	6位
フランス	72.6	8位	82.4	9位
カナダ	72.3	10位	82.2	12位
イギリス	71.4	21位	81.2	20位
ドイツ	71.3	23位	81.0	24位
アメリカ	69.1	36位	79.3	31位
中国	68.5	41位	76.1	53位
ロシア	67.4	44位	73.5	61位



産業構造の変化に伴う職業の変化

■2011年に小学生になった子供の**65%**は将来、
今は**存在していない職業に就くと予測。**

Photo by their Web site

キャシー・デビッドソン教授:※ニューヨーク市立大学大学院センター



■今後10年～20年程度で、**半数近くの仕事**
が自動化される可能性が高いと予測。

マイケル・A・オズボーン准教授:※英・オックスフォード大学

■「**未来を予測**する最善の方法は、**それを発明**することだ」

(アラン・ケイ氏 (カリフォルニア大学ロサンゼルス校准教授))

概念上のタブレットを発明

(1972年)

アラン・ケイ



第4次産業革命 ～技術のブレークスルー

- 実社会のあらゆる事業・情報が、データ化・ネットワークを通じて自由にやりとり可能に(**IoT**)
- 集まった大量のデータを分析し、新たな価値を生む形で利用可能に(**ビッグデータ**)
- 機械が自ら学習し、人間を超える高度な判断が可能に(**人工知能(AI)**)
- 多様かつ複雑な作業についても自動化が可能に(**ロボット**)

→ これまで**実現不可能**と思われていた社会の実現が可能に。

これに伴い、**産業構造や就業構造が劇的に変わる可能性**。

データ量の増加

世界の**データ量**は
2年ごとに倍増。

処理性能の向上

ハードウェアの**性能**は、
指数関数的に進化。

A I の非連続的進化

ディープラーニング等
により**A I** 技術が
非連続的に発展。

Society 5.0に向けた人材育成 ～社会が変わる、学びが変わる～ (概要)



平成30年6月5日

Society 5.0に向けた人材育成に係る大臣懇談会
新たな時代を豊かに生きる力の育成に関する省内タスクフォース



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

狩猟社会 (Society 1.0)

農耕社会 (Society 2.0)

工業社会 (Society 3.0)

情報社会 (Society 4.0)

人類がこれまで歩んできた社会（ソサエティ）を
仮想空間と現実空間を高度に融合し

イノベーションによって

経済発展と、社会的課題の解決を両立する

人間中心の社会

「Society 5.0（ソサエティー5.0）」

文科省が目指すSociety 5.0に向けた材育成
「社会が変わる、学びが変わる」より

教師だけが一方的に教えるような
教育活動から、
多様な選択肢の中で、
自分自身の答えを生徒が自ら見いだす
ことができるような学習が中心となる場へと
転換

時代の変化に連動

持続可能な開発目標（SDGs）

- 2015年9月の国連サミットで全会一致で採択。「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030年を年限とする17の国際目標。（その下に、169のターゲット、232の指標が決められている。）



普遍性

先進国を含め、全ての国が行動

包摂性

人間の安全保障の理念を反映し
「誰一人取り残さない」

参画型

全てのステークホルダーが役割を

統合性

社会・経済・環境に統合的に取り組む

透明性

定期的にフォローアップ

持続可能な社会を創るために必要な視点

～各園で持続可能な社会の担い手を育てるために～

多様性	いろいろある
相互性	かかわりあう
有限性	かぎりある
公平性	一人一人を大切にする
連携性	力を合わせる
責任性	責任をもって取組む

☆各園での幼児教育として大切にしていることに重なる

「Society5.0」において育むべき子供たちの資質・能力

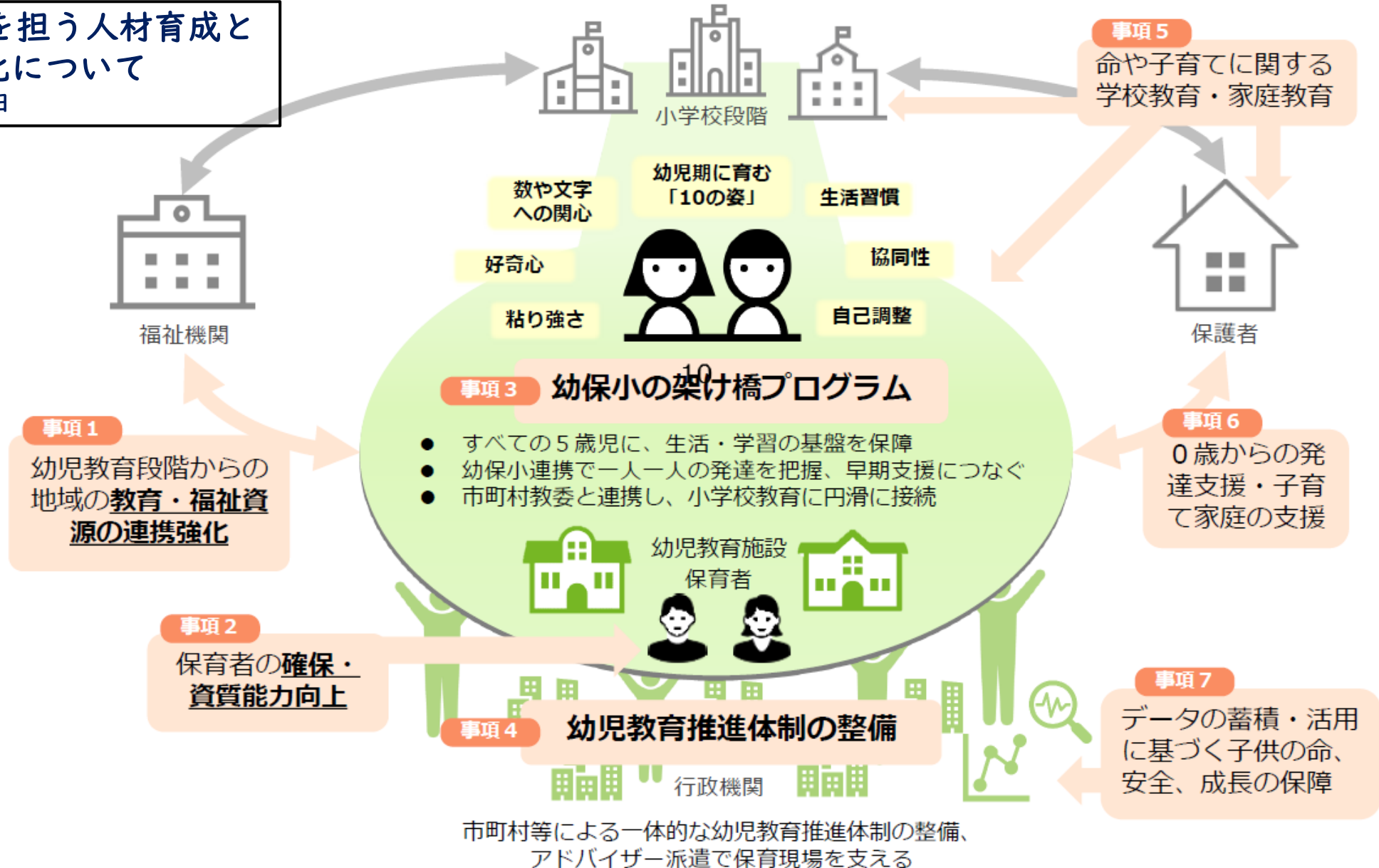
子供たち一人一人が、
自分のよさや可能性を認識するとともに、
あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、
多様な人々と
協働しながら
様々な社会的変化を乗り越え、
豊かな人生を切り拓き、
持続可能な社会の創り手となることが
できるようにすること（教育要領・前文より）

幼児教育スタートプラン（仮称）のイメージ

以下の事項を、幼児期の教育に関する基本的な計画として位置付け、一体的に実行することで、子供の未来への架け橋となる社会システムを構築。

新たな時代を担う人材育成と 研究力の強化について

令和3年5月14日



幼児期の教育は
環境を通した教育が大切であることを

小学校の先生にも
保護者にも
世間一般にも

（場合によっては、園長や園の先生にも）
分かるように各園が見える化する必要がある

コロナ禍においても学校教育が果たしてきた役割が今、
世界中で再認識・再評価されている　やはり大切だ！

例えば…人として安心してつながれる

全人格的な発達・成長を保障する役割

精神的な健康を保障する

加えて、

変化を見越すことができない変化に対して

準備の構え（レディネス）と

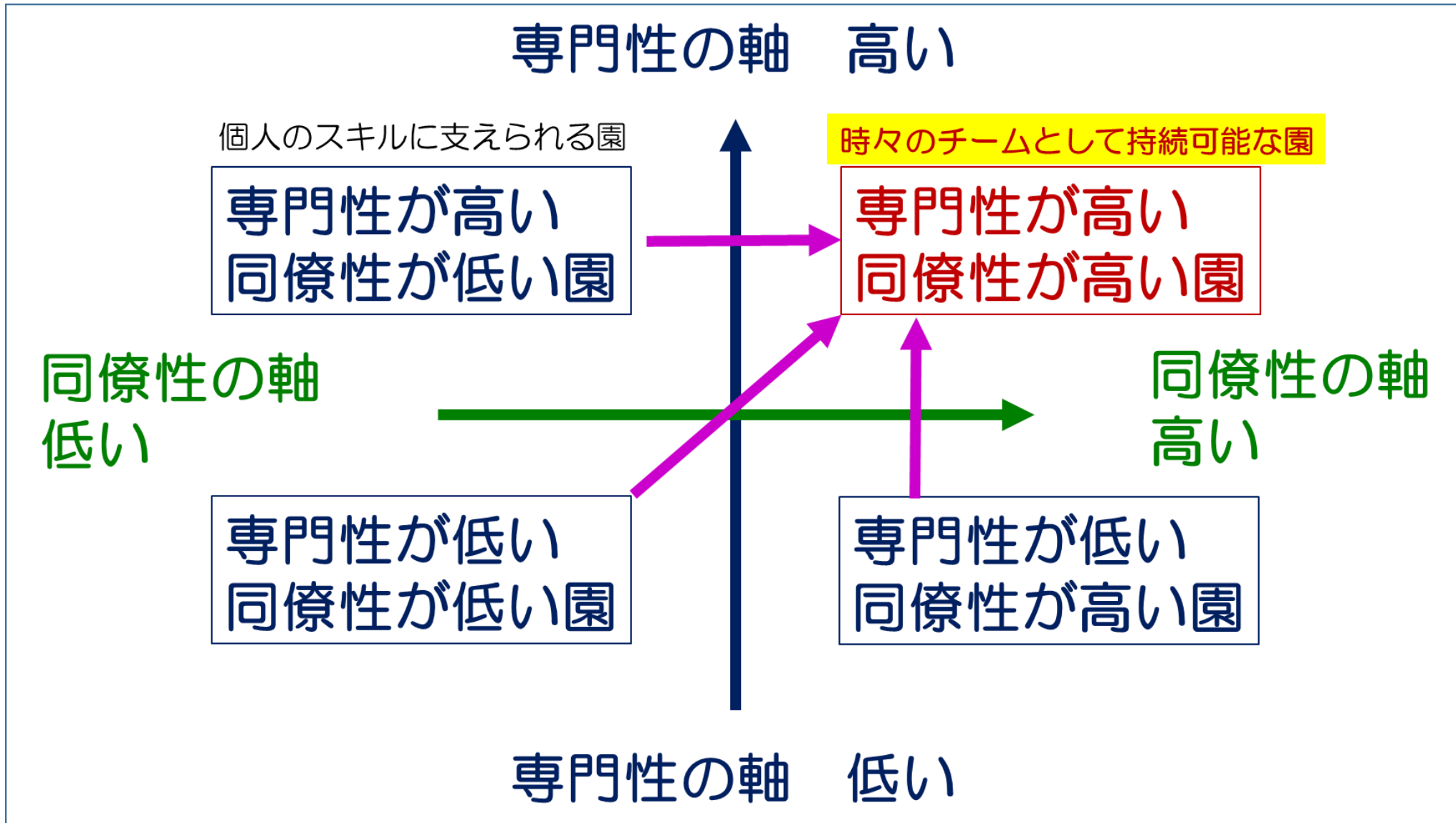
しなやかさ（レジリエンス）が必要

「カリキュラムとは」

「幼児教育の専門性とは」

見えない教育の価値を

見える化していくこと



外部講師からの 専門性と同僚性の 2視点からの支援

人と「同じ」で人とは安心する

でも…皆が同じではない

人との「違い」をどう乗り越えるか

皆と同じではなく、それぞれの「違い」を

どう包みながら つながり合っていくか

保育実践から学ぶこと得るものは多い

「違い」とは… 攻撃や差別の対象なのか。

自分の世界を広げることが成長であり、
その違いを味わい
その違いを楽しむことが大切で、

その肯定的な体験は、
幼児の人生にとって、自分と違う文化を知り、
得る機会を尊重する原体験になる

幼児への保育も 教職員集団も同様に

☆自分が人と違っても 大事にされること

・ 本人の心の安定 ・ 人や社会とつながる喜びを知る

☆多様性の尊重

・ ゆるやかな関係 ・ よさを見つける

・ 受け止める度量を増やす

☆人は考えを他者と共有したい存在

人はより優れたものを生み出すために協力する存在

その力を最大限に発揮すること

能力が育成されていくこと

5月保護者会 全体会 園長より
～運動会に向けての
子どもたちの姿とその成長～

2021年5月21日
園長 加藤篤彦

園長の話は担任が把握してまとめた事例を
もとにして保護者に伝えるもの
園組織マネジメントの
具体的な事例としてご覧ください。

今日のテーマ「がんばる」ということ 無藤隆先生のエッセイから

大人のイメージでは、何かを目指して、でもすぐに実現しないので、練習したり、耐えたりという時間が長く必要だし、そこで根気よく、また力を込めていくという努力

子どもも頑張れるように育てることが大事だと思う人も多いと思う

子どもがやろうとすることを

（「あなたがやりたいといったんだから！」 加藤追記】

すぐに諦めないで、嫌になってきても、大人として激励して何とかやり遂げることが大事だ、そうでないとすぐに諦めて、なにも達成できない人間になってしまうのではないかと心配するでしょう。

では、大人は常に耐えて、辛抱強くやっていて、
そこで上手になったり、成功したりするものなののでしょうか。

確かに目指すことが高度になれば、上手になるのに時間がかかります。
時に退屈になったり、嫌になっても、
諦めずやり続けることで熟達していくのです。

ただ、実はそこは、練習の一番大事なことではないのです。

そういうことが必要な局面はありますが、それ以上に、
練習しながら、やり方を工夫したり、目指すところを現実的なものとし
たり、などいろいろとしている内に、
いつの間にか我を忘れて熱中し集中していくことで
本当の意味で熟達が生まれるのです。

小さな子どもであればよけいに、
熱中して遊ぶから、もっと上手になりたいと思って工夫が生まれ、
だからさらに面白くなってやり続けるのです。

子どもががんばるとは、
そういう熱中と工夫の中で身に付けていくやり方なのです。

『運動会』を経験したことのない年少さん

「うんどうかい」ってなんだろう？

イメージがないところからのスタート

知らないことを知りたい。なんだかわくわく！

新しいこと、未知なることは楽しい！

という気持ちを大切に育む。

身体を動かすことの楽しさを

もう一回！もう一回！（やりたい）につなげていく

小学校の校庭は、
とても広い場所で、
パパやママが見えるのに離れている…なんでえ！と
泣いてしまう子がいるかもしれません

『運動会』という初めての体験
おうちの人から離れて、みんなの中で、
笑顔でできたことだけが、よい結果なのではなく、
涙ポロポロしつつ、なんとか頑張ろうとする姿も
いとおしく受け止めたい

幼児との対話

運動会という大きな出来事は家でも話題になりやすい

我が子の言葉に 共感して そうだねと返す

その次に

「お母さん楽しかったよ」などと 一つ載せて返す

→伸び伸びと楽しむ子も、ちょっぴり涙している子も、

運動会後には「すごく楽しそうだったね」

「ようい、どんできたね」と

我が子らしい成長のポイントを認めて伸ばす

年中組から

年少の経験の上にのせていく

廊下に、万国旗が登場しました（高さも肝です）
すると子供たちから「きょう、うんどうかいなの？」
という声か。

Aくんは紙に“うんどうかい”って書いて！と私に言
い、運動会のお知らせの様なものを作りました。

万国旗の下で開会式の入進をしたり、ダンスをおどっ
たりして楽しみました。

右の子は手作りのカメラを持ってきて「撮るよ～」と
一言。カメラマンまで登場し、万国旗の下で楽しい運
動会ごっこが盛り上がりました。

何度も繰り返して上達する
繰り返して楽しくなる園庭の環境構成 ←幼児教育

例えば、かごの高さを3段階に分けて設置
はじめが一番低いところが人気！
だんだんにより高い目標（高さへの挑戦）と変化する
新たな目標を自分で決めることを学んでいる
隣で年長さんが高いかごにどんどん入れる姿に憧れる
やがて、「ぼくがいれた」から
「ぼくもいれた」に言葉も変わる。



あかチームの初めての対戦は、みどりチーム。
かごをめがけて玉を投げることに夢中になり
たくさんの笑顔！楽しさが伝わってきました。

1回戦目の結果は、みどりチーム20個！

あかチームは8個だけ！完敗でした。

「やったー！いっこ入ったー！」と
嬉しそうにしていた子供たちでしたが

“そうか！いっこじゃダメなんだ！”

“たくさん入れないと負けちゃうんだ！”と
対戦をして気が付いたあかチームでした。

2回戦目前には少し表情が変わったように感じました。

やりながら本気になっていく
～先生に言われてやるのではない～

「スタート！」の合図とともに2回戦目が始まると、
先程まで笑顔だった子供たちの表情は
一気に真剣モードに。

同じ投げる動作でも、

“狙って投げる”という真剣さが加わりました。
勝ちたい、いっぱい入れたいなど…

年長組から

- ・ リレーにみんなで行って行く
- ・ 自分と向かい合う
友達と一緒にいてくれることの意味を考える

負けてしまった日には、
集まりの時間に

「どうやったらはやく走れるか、勝つことができるのか」を
話し合い作戦を練りました。

「大きな声で応援する」

「名前を呼んであげる」

自分が走るときは、「よそ見をしないで前を向いて走る」

「転んでもあきらめない」

「次のお友達からもらうときは、しっかり見る」など

たくさんの意見が活発に出ました。

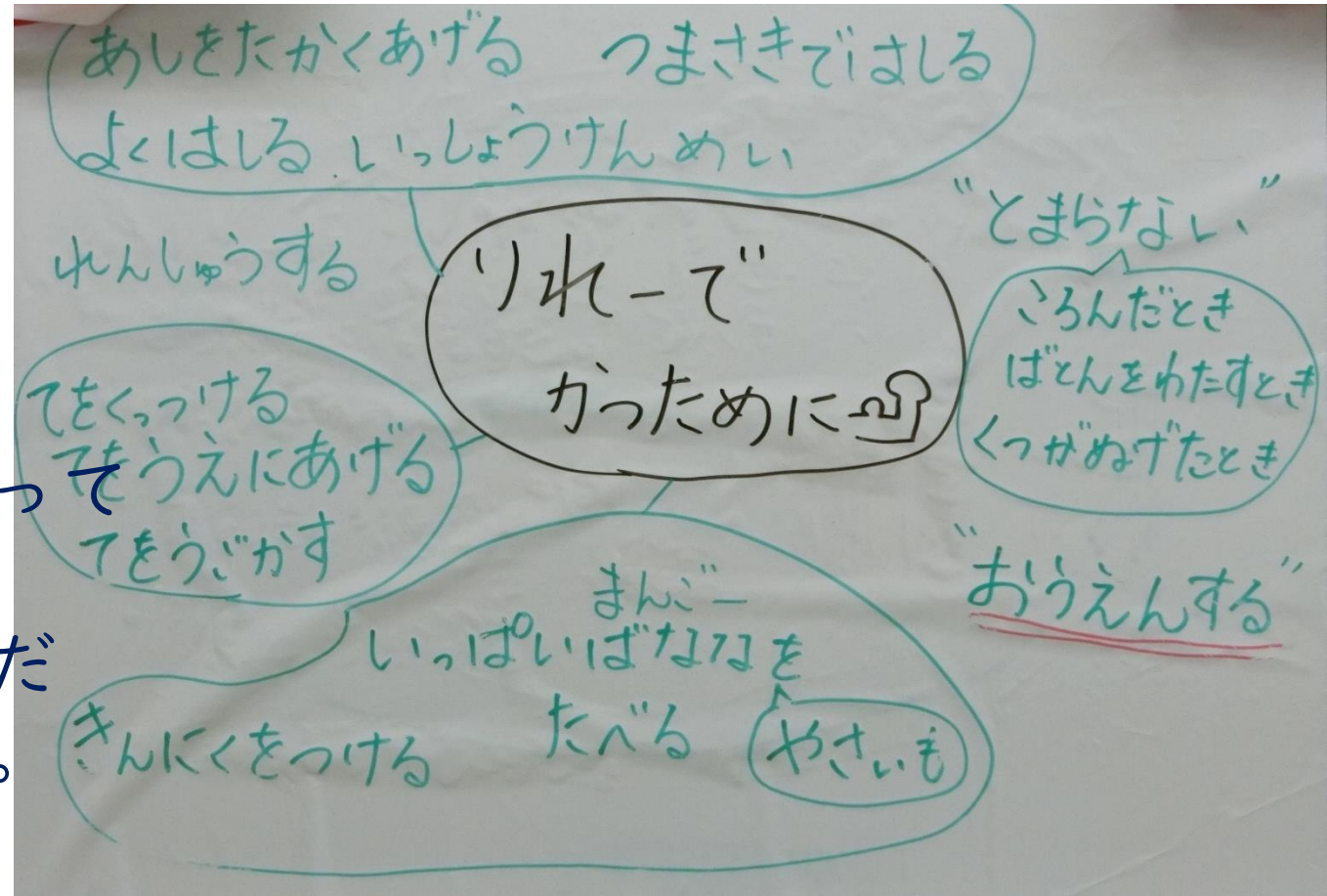
昨日も他のチームとリレーの勝負をしました。
けっこう良い勝負だったんですが、
残念ながら負けてしまいました。前回までは、
「勝ったら嬉しいけど、負けたらあーまけた。」くらいの
テンションだった子どもたちが、昨日はいつもと違いました。

目をうるうるさせながら、
「ねえ、もう一回戦やりたい」という子
「どのくらい悔しいと思う？」
あのね、なんかぐちゃぐちゃにするくらい悔しい！！」と
私に話してくれた子もいました。
話し合い作戦をたてた上での勝負だったので、
今までとは違ったのだと気付きました。

リレーごっこを重ねていくと、勝ったり負けたりの繰り返しの中で、
なんとしても勝ちたいという気持ちが芽生えてきます。
勝つために、自分は、自分たちは何ができるのかを みんなで話し合う
その真剣な話し合い そのものもとても高度な学習活動となっています。
担任はグラフィックファシリテート役となっています。

また 右にある→

「一生懸命」という単語
単に書かれた言葉ではなく、
この後の勝負で、
「一生懸命走る」という行為をもって
自分にとっての
一生懸命って、こういうことなんだ
という学習活動になっていきます。



運動会のリレーは手に汗握る大勝負

その大勝負の根っこには、園での日々の生活があります。

リレーに向かいつつ、年長児は様々に大切なことを学んでいます。

この事例では、5歳児にも しっかりと

どうしてもやりたい役割があって、やりたいことにむかって挑戦し、

思いのようにいかないことがあっても、思いが深い分、葛藤も深く

自分の中で、なんとか折合いをつけようとし、

そんな自分でいっぱいのに、

その自分の周りには先生や友達のまなざしが注がれていて

支え支えられつつ、一人一人が生きていることが見えてきます。

幼稚園には、教科の時間割や教科書がありません。

しかし、皆との生活を通して、授業では得られない

人生の基礎となる学びを 主体的に得ているのです

幼稚園教育要領の五領域 【健康・人間関係・環境・言葉・表現】

【健康】 【人間関係】

- ・目標におかって努力する→やり遂げた喜びを味わう
- ・友達と切磋琢磨する→互いに刺激し合いながら目的に向かう楽しさを感じる

【環境】 【人間関係】

- ・試行錯誤する→自分で考えて解決していく楽しさを感じる
- ・友達と力を合わせて取り組む楽しさを感じる

【言葉】 【人間関係】

- ・折り合いをつける→友達と分かり合う嬉しさを感じる
- ・新たな考えを提案する
- ・考えを合わせる→友達と一緒に解決していく楽しさを感じる
- ・応援し合う・励まし合う
- ・作戦会議をする

【健康】 【表現】 【人間関係】

- ・友達と動きを揃えて表現する楽しさを感じる

【健康】

- ・緊張感を味わう→緊張を乗り越えやり遂げた充実感を味わう
- ・不安を感じる→不安を乗り越える自信をもつ

【健康】 【表現】

- ・なりきって表現する楽しさを感じる
- ・リズムに合わせて体を動かす楽しさを感じる

【人間関係】

- ・葛藤する→自分の気持ち、相手の気持ちに気付く
- ・悔しさを味わう ・喜びを感じる ・分かちあう
- ・友達と息を合わせる ・楽しさを感じる ・受け止められる

日々の中で感じたり体験したりしたことが運動会を終えて
実感として得られ、経験として根付いていく

現代という**答えのない時代**を生きる子供たち
問い どのような力を育成する必要があるのか
「課題」を「解決」する力

- 日常の中で「課題」を自分で見つけること
- 自分で考えること
- それをやり遂げること
- やり遂げた時に育っている力

(従来の学校教育のスタイル 質問→答え)

授業の I R E 構造

教師の発問→生徒の回答→教師の評価 のサイクル

教師が知っていることを子に問うて
あっているか（評価する）授業方法

教師が求めている答えをもとにして授業が展開する
子どもの自由な発想を妨げてしまう可能性
大人が当たり前と思っていることは
子どもも当たり前であるとは限らない
子どもの豊かな可能性は、
否定するのではなく、その発想を広げる努力が必要

非認知的能力 → OECDが着目

「社会情動的スキル」

「目標の達成に向かう力」

教育要領では「学びに向かう力」と表記

目標の達成

- 忍耐力
- 自己制御
- 目標への情熱

他者との協力

- 社交性
- 敬意
- 思いやり

情動の抑制

- 自尊心
- 楽観性
- 自信

出典：OECD 資料（社会情動的スキルのフレームワーク）

人生の成功には、認知だけでなく
それ以上に、社会情動的スキルとして示さ
れる「心の働き」が重要であることが
世界的な共通認識となった

すでに高度技術革新時代に突入している

一方、学生・社会人に「させる教育」の弊害が表出

集団適応重視の教育

(一斉に教わり・一斉に同じことができる
教え込み、覚えさせるだけ、指示と命令
先生の意図通りにきちんと出来ること)

結果的に…

- 自分が何をしたいか、
どうしたらよいかを考える体験がない。
指示されるまで待つ
- 失敗を恐れる、チャレンジしない
- 無気力、無感動、無関心

課題を解決する力

「すでに分かっていることを 教えられ →覚える」

学習モデルでは身につかない

→学びの省力化 考えるのではなくて、やり方を覚える

- 簡単にやる方法を教えてください
- 簡単に単位を取るにはどうすればいいですか

アクティブラーニング

(教師が 親が) 何を教えたか から
(子どもが) 何を学んだか 何を学んでいるのかへ

これからの教育の課題

高度技術革新社会の到来

→最先端の技術は開発。開発は習い覚えることができない。
単に先生や親に教えられたことを
指示通りやればよいのでは開発する子にならない。

さらに学びを深める「探究志向」への転換が必要
→深い学び

自分で考えて、やってみて、その結果を修正する
自分自身が分からないことに立ち向かうことが
「面白い」「楽しい」という子供の育成へ

学習指導要領改訂の方向性

新しい時代に必要な資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

「**社会に開かれた教育課程**」の実現

各学校における「**カリキュラム・マネジメント**」の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要な資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共（仮称）」の新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

学習内容の削減は行わない

どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「**アクティブ・ラーニング**」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得
など、新しい時代に求められる資質・能力を育成

知識の量を削減せず、質の高い理解を図るための学習過程の質的改善

主体的な学び
対話的な学び
深い学び

幼稚園は学校教育の始まりであり、こうした改訂の方向性を踏まえて幼稚園教育要領において必要な改訂を実施

昭和の時代

保育所←福祉

保育に欠ける

幼児の支援

幼稚園←教育

望ましい

経験をさせる

お子さんは
しっかり預かるから
お母さんは
安心して働いてね

昭和→平成→令和

幼稚園では
学校教育体系の中で
私幼として
研修を重ねてきた
研修俯瞰図・幼稚園ナビ
処遇改善Ⅱ研修対象
(体系的な研修体制)

令和の時代 ～保育所・認定こども園・幼稚園～

「保育の質を高める組織マネジメント」が必要な時代へ
幼児教育の質の向上が重要であり、
幼児教育では「〇〇させる」活動から
幼児自身の主体的な学びを重視する時代となった

幼児自身の主体的な学びは、
教師自身の主体的な学びと同じ
「主体的な学び」を知り
資質・能力を育む教育組織へ

「コンテンツ」→「コンピテンシー」（資質・能力）

コンテンツとは園が用意している内容

→園で「何をするか」から

コンピテンシーとは園が幼児に育てている力

→園で「何を育てるのか」「何が育っているのか」へ
身近にコロナ禍にはいり、園でする活動は見直しを
しなければならなくなり、各園が保育を見直し、
創意工夫する時代となった

コロナ禍は、資質・能力の育成へ

視点をシフトするチャンスにもなった

年少3歳児 シャベルカーの物語

ふとしたはずみで、シャベルカーの荷台部分を
取ってしまってた？ 取れてしまってた？
元に戻そうとするものの 再現できず 葛藤します

【こうしたい】という明確なイメージがあって
だからこそ、どうすればいいのか、試行錯誤します

自分のイメージを言葉にして伝えてもいます
言葉にしてイメージを自分の中で、整理もしているのです

先生に助けも求めますが、ここは自分で作ることが大切！
先生はにこにこ見ていてくれるけど、
教えてはくれません 試行錯誤が続きます

どこにどうセロハンテープを貼れば、
イメージ通りになるのかを、教師が教えるのは簡単です

効率よく、きれいな作品は出来上がります
でもそれでは、幼児自身が「考える経験」ができません
→「考える」機会を損失しているのです

どうしても作り上げたいイメージに向かって
意欲的に、集中して、最後まで根気よく取り組む
時間（経験）が大切なのです その結果が作品です
作品はきれいな出来栄えの一面ではなく、
学びのプロセスの結晶として受け止めてください

自分自身で成し遂げたことから
作品は、幼児自身にとってもかけがえのないものになります

幼稚園の保育環境・教師のまなざし・保育のねらいがあって、
幼児自身が 楽しく 考え 取り組み
作品が出来上がっていくのです

セロハンテープひとつとっても、集中している時には
使用量を幼児に委ねなければ、試行錯誤はできません
同じ場所に重ね張りしているとすれば、それは、
試行錯誤のプロセスであって、
やがて成長し洗練されれば、適切な貼り方に変わります

今の教育で重要視されている
「学びに向かう力」の獲得とは

自ら目標をもち、
工夫をしながら、
強い意志を持って、
それを達成しようとする事

その姿があらわれてくること
(アウトカム)



「社会に開かれた教育課程」をどう解釈し
幼稚園をどう社会に開き、つなげていくか

社会へのつながり

「家庭」 「地域」

「子供が生き抜く今後の社会変化」

「小学校」 「他の園」

「子ども関係機関」 「行政」 「政治」 等

そしてつながるために

地に足付けて私たちが語る言葉

自分で獲得することが学び
(獲得する「学び」が楽しい子どもへ)

学びの主体者としての 子どもの幼稚園生活

大人が見えている最短距離の学びの理路は
子どもには見えていない

教えてもらったら 子どもは面白くない

だから、よかれと思って、
「ああして」「こうして」という
大人の指示と命令は
最短距離で効率よく学ぶ
指示に素直に従う子 として育つが、

一方で、自ら考える機会を損失させてしまっている

結果が伴わない時に、パパやママの言った通りに
したのに…人のせいにする子が育つ可能性もある

なぜに望ましい活動をさせるで終わらないのか…
その回答のひとつ

「遊びとしての Guided Play」
Scolnick et als.2015

よく遊ぶほど
社会スキルや自己調整能力、創造的な思考力を
育てる。

遊びのタイプ

	大人始発 initiated	子ども始発
大人が方向づける directed	Instruction 教授	★Co-opted play 合わせる
子どもが方向づける	★Guided Play	Free play

- ◆あそびの環境の構造化と要素は大人が行っているが子ども自身がその環境の中で自分でコントロールできることが大事。自由か構造かのバランスの議論が必要

幼児教育におけるICTの活用について ICT機器の利用範囲例

- 1) 保育実践…遊びの可能性を広げるために
- 2) 保護者への発信…保育や育ちを伝えるために「社会に開かれた教育課程」
- 3) 園外とつながる…コロナ禍での幼小接続・卒園児・敬老の催し
- 4) 事情で登園できない園児の支援（アウトリーチ）…zoomを利用した取組
- 5) 保育記録（幼児理解）…画像や映像の利用と集積
- 6) 保育計画や振り返り…週案などの書類での利用
- 7) 園内研修…画像や映像の利用
- 8) 保育記録からの対話（おしゃべり）
- 9) 業務支援・能率化…書類のデジタル化・時間差勤務者との情報共有
（zoom録画・打合せ利用）
- 10) 保護者との連絡 …連絡ツール、情報発信ツールでの利用

保育環境でのICT活用の分類 主にiPad

A. 調べるツールとしての活用

1. 山伏岩の**紙芝居**の読み聞かせ→解説に「実在する」と記載があった。
その場で調べ子どもたちと一緒に画像を通して実物を見ることができた。
(紙芝居の**物語を身近に感じる**)
(物語の**イメージをつなげて楽しむ**)
2. 劇遊びの内容を**クラスで話し合った**際に、「アッチとソッチ」の絵本が話題となったが、絵本を知らない子がいたので、その場でiPadで調べ画像で絵本の表紙を見せると「知ってる!」との反応があった。
絵本を本棚に探しに行く間で腰を折らず、そのまま子どもたち同士の話し合いを続けることができた。 **即時性・その場で調べられ画像共有**

保育環境でのICT活用：iPadを保育の場で利用する

(本園では4.5歳児の各クラスに1台ずつ配置している。その使用事例として)

A. 調べるツールとして活用する

1. 山伏岩の紙芝居の読み聞かせ→解説に「実在する」と記載があった。
その場で調べ子どもたちと一緒に画像を通して実物を見ることができた。
紙芝居の物語を身近に感じる 物語のイメージをつなげて楽しむ
2. 劇遊びの内容をクラスで話し合った際に、「アッチとソッチ」の絵本が
話題となったが、絵本を知らない子がいたので、その場でiPadで調べ
画像で絵本の表紙を見せると「知ってる!」との反応があった。
絵本を本棚に探しに行く間で腰を折らず、そのまま子どもたち同士の
話し合いを続けることができた。 即時性・その場で調べ画像共有

3. 「クジャクを作りたい!」という子どもがいた。
どんなふうに作ろうかと、実物を図鑑で調べたが見つからず、
作りたいもののイメージを捉えるために使用



画像は、
蜘蛛の巣をつくりたい年長児

担任がグーグルで
「蜘蛛の巣」
「画像」で検索して提示

4. 子どもたちから「ビーチパラソルを作る」というアイデアが出てきた。
ビーチパラソルってなんだ??という子たちに
イメージをすぐに共有するためにiPadで調べて共有した。

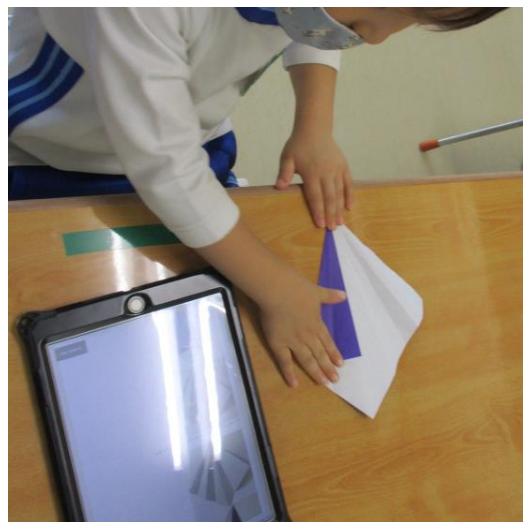
図鑑にないものを探す。画像を利用して皆でイメージを共有する。

4. 秋の虫の絵本を読み聞かせ
スズムシ、コオロギの鳴き声を知らない子どもが多かったなので、その場で
iPadで調べて皆で聞いた。
虫の鳴き声への関心が高まった。
野原で虫の声に耳を澄まして聞くきっかけになればと願っている。
動植物の音を再生する。

5.A

ICT機器は
自分でイメージして折れるまでのきっかけ
自分が折りたいものが見つかることは

主体的な取組の足場となる



5.B

折り紙の本にはない花の折り方を調べ、YouTubeを使い、折り紙を楽しむ。園児は、「停止」「再生」などの操作も分かっており、みんなのペースに合わせて停止したり、戻ったり、再生する姿がみられた。

折り方の“動き”が分かる方が、折り紙の本より分かりやすい



B.自分を客観的に見る(振り返る)ツールとしての活用

1. 園まつりの楽しかったことを絵に描く際に、何日もかけて夢中になって作った「落とし穴」に落ちてる自分を描きたい、という子どもが、**どんなふうに描いたらよいのか**悩んでいたのもので、本人が穴に落ちているところをiPadで撮影して画像にしてみせた。



自分を客観的にみてる

2. みんなで取り組んでいる姿を撮影し、自分たちで観賞する。
ダンスや体操、音楽など自分たちがやっている姿を録画・録音して、
自分たちの姿を振り返るきっかけとしていた。
昼食の際にみんなの歌声などを流し、
自分たちで自分たちの歌声を聴くことで、
「もっとやさしくきれいに歌おう！」などの会話をしていた。

自分たちの取組を振り返る

ペープサートの劇はどう見えるのか…

C. 動画を録画するツールとしての活用

1. 遊びの時間に以前に教えてもらった体操をしたい、
という子どもに、iPadで撮影した教師の体操の動画を再生した。
動画を見ながら模倣して体操を楽しんだ。
2. 自分が興味のある虫を自分で撮影し、何度も再生して、
その生態をじっくりと観察する。

D. 音源を再生するツール:スピーカーとしての活用

iPadからBluetoothでスピーカーに繋げるという音質の音で再生できる

1. ダンスや体操をする際に、曲をかける。

2. 遊びをさらに発展させるための音源 海賊ごっこ 年中組

海に見立てた青いビニールの上に椅子を並べ、船ができた。

子供たちはとにかく「僕も私も乗りたい!」と集まった。

降園間際になってもなかなか終わりの切れ目がなく楽しんでいたのも、
「みんなで荷物を持ってもう一度船に乗り、家まで帰ろう」と声を掛けた。

“船” “海” というイメージが子供たちの中にもあったため、
iPadで海の波の音を流し、より海の雰囲気味わえるようにした。

年長5歳児クラス事例 「電車ごっこの切符づくり」

iPadを利用したことで、遊びが発展した例



園まつり作品を解体した
段ボールで
電車ごっこを楽しみ始めた。

電車に乗って園舎を回ったり、
「切符が必要!」と折り紙や
色画用紙で切符を作ったりして
いっぱい切符を作って
楽しんでいた。

動画から読み取れること

「ロープウェイを駅に入りたい!」 (動画の中の子どもたちの動き)	行動から読み取れること
<ul style="list-style-type: none">・A 男がロープウェイを上から出発させる。・B 子が横から眺め、C 男は駅を覗いている。・D 男は駅に接続してあるロープ(紐)を持ち駅の中をのぞいている。・D 男はロープウェイが駅に着く瞬間にロープ(紐)から手を離している。・ロープウェイが駅の入り口にぶつかる。・「ああ～」と言い、A 男が駅のロープウェイを引き戻しに行く。・少し離れて見ていた 2 人の子が駅の入り口を覗きにくる。一人はぴょんぴょんしたり、グーの手で足を数回たたいたりしながら近づいてくる。・B 子は駅に近づいて入り口を見る。他の子も、より駅の入り口の方へ寄る。・みんなの視線が駅の入り口に集中する。・2 回目、A 児がロープウェイを上から出発させる・D 男は駅の入り口部分のロープをつまんでいる・1 回目と同じく、駅に着く直前に D 男はロープ(紐)から手を離す。	<ul style="list-style-type: none">・駅に入ることを想像したり、期待したりしている。・関心をもち、駅に入ることを期待している。・駅に入ることをイメージして、入るための方法を考えている。・ロープ(紐)の位置が関係しているのでは、と予想して位置の調整をしている。・惜しい!という気持ちから、もう一度やってみようという意欲が高まる。・惜しい、次は入るかなと、期待が高まり興味をもっている・「駅に入りたい」と、みんなの気持ちが揃い、みんなの関心が駅の入り口に集中している。・次こそは、と期待を高めている。・駅に入ることをイメージして、入るための方法を考えている。・ロープ(紐)の位置が関係しているのでは、と予想して

エピソードから読み取れる←

幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿←

1、 健康な心と体 ←

・自己発揮 ・安定感をもって環境に関わる ・自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせる←

2、 自立心 ←

・身近な環境に主体的に関わる ・自分の力で行うために考える ・あきらめずにやり遂げる

3、 協同性←

・共通の目的に実現に向かっていいる ・考えたり、工夫したりしている ←

4、 道徳性・規範意識の芽生え←

・友達の気持ちに共感したり、相手の立場にたって行動したりしようとしている ・自分たちのルール ・気持ちの調整←

5、 社会生活との関わり←

・←

6、 思考力の芽生え←

・物の性質や仕組みを感じ取ったり、気づたり、考えたり、予想したり、工夫したりしている ←

7、 自然との関わり・生命尊重←

←

8、 数量や図形、標識や文字への関心・感覚←

※このエピソードに至るまでには、ロープウェイと駅の大きさ、ロープの高さなどを考えたり、試したりしている。←

9、 言葉による伝え合い←

※このエピソードに至るまでには、言葉のやりとりをして作り進めてきている。←

この場面では目的を共有しているため、言葉のやりとりは少ない。←

10、豊かな感性と表現←

様々な素材の特徴や表現の仕方などに気づき、感じたことや考えたことを表現。表現する喜びを味わっている。←

「探求」深い学びを
キーワードにして
身近な保育実践につなげて考える

年長3月から5月に時を遡る
リレーの物語
～ リレーで走るためのトラックを描く ～

- 自分達でやりたいことがある
- リレーをするには、コースが必要
今までの経験と知識からスタート
- 園児の「やってみたい」「やりたい」という思いの尊重
- どうするかを子が自分で考える
- やりたいことを実現できる環境（チョーク）の用意・援助
- 実際にまずやってみて あれ？ 気づきと、とまどい
- 自分達で思っていたことと、結果のずれの認識
- 自分と自分達にとっての必然として考えはじめる

探求志向は
モチベーション・意欲・忍耐などの（心の働き）が重要

ただし「心は命令しても動かない」
教育のパラドクス…「主体性は教えられる」
主体的になれと教えたとたん、主体的でなくなる

幼児期の発達特性にあっていて、
主体性（我がこと化する）ための学習方法が「遊び」
→学びは、誰かにさせられるものではない
「遊び」と「遊ばせ」と区別が必要

「探求」深い学びを
キーワードにして
身近な保育実践につなげて考える

年長5月から7月へ
ジャングルの川を作りたい
～わちゃわちゃとしている中で～

サマーアドベンチャーツアー2021

コロナ禍にあって「学びを止めない」というフレーズをよくきく
それは単に「休園」にせず保育を継続することのみならず

コロナ禍にあって、今まで通りにはできない行事についても
年長組の「育ちを保障」するためにはどうすればよいかを
考え実行することでもあった

アドベンチャーツアーを終えて、
「あーっ 楽しかった」「またやりたいな」という
つぶやき をめざして！（自然なアウトプットが子どもからの評価）
育てたいこと・経験させたいことを大切にして
時代に対応した新しい企画を立ち上げた

- ・お泊り保育に向けて互いの考えを出し合い、友達と一緒に協力して進めることを楽しむ。

- ・クラスアクティビティー選び
 - ・必要な係を考える
 - ・必要な荷物を考えるなど、
- 様々な話し合い、製作、準備

- 友達と一緒に
みんなで遊べる
お楽しみ仕掛け

- ・相談・設計
試行錯誤・完成・運用
- ・係を考える
- ・みんなで決める

※仕掛けづくりは、
例年6月の協同製作への
目標を含む。

- ・みんなのなかで自分の役割を見つけ、それぞれに意欲的に取り組む。

- ・お泊り保育の係決め
- ・お泊り保育中の生活や活動のなかで協力し合う

- ・サマー
アドベンチャーツアーの
係決め

- ・季節の気候や自然、行事に親しみながら、友達と一緒にいろいろな活動に取り組む楽しさを味わう。

- ・流しそうめん
- ・キャンプファイヤー
- ・アクティビティー
(ぶんぶんゴマ、水遊び、
わくわく冒険ゲーム)

- ・流しそうめん風
キャッチャーゲーム
- ・クラス製作
お楽しみゲーム
- ・わくわく冒険ゲーム
いろいろ
- ・ぶんぶんゴマ製作
- ・かき氷・カレーライス
- ・花火

- ・友達と一緒に試したり工夫したり
することを楽しむ。
(試行錯誤・探求)
- ・素材や道具の特性に
気づき、
製作に取り入れる
面白さを感じる。

行事への願い、活動を振り返り
整理することからスタート

年長組では、アドベンチャーツアーという
楽しいみんなの目標に向かって

日常の保育の中で、ツアーを主体的に楽しめるように
「何をして楽しもうか？」と話し合いをスタート

みんなが 自分のこととして考える
いろいろな意見やアイデアがいっぱい
どうすればいいかをそれぞれで考える。みんなで考える

話し合って「そうだね！」と、納得しつつ進めます

困難があるなら 乗り越えよう

年長さんにもなれば、
みんなで力を合わせて
乗り越えよう！
それって楽しい！
という育ちが見える

おまけ：幸せな子供を育てる4つの因子 前野隆司2016

- やってみよう因子…自己実現・誰かの役に立つ感
- ありがとう因子 …愛されている・感謝と親切
- なんとかなる因子…楽観的・気持ちの切り替え
- あなたらしい因子…自分と友達と比べない
マイペース

幼稚園の日常は、こんな幸せと学びであふれています

ご清聴をいただきまして
ありがとうございました。